

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム西井
(ユニット名)	第一グループホーム西井
所在地 (県・市町村名)	松阪市曾原町813-1
記入者名 (管理者)	笹原 斉
記入日	平成20年10月24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境のもと、その人らしく生活が出来るように支援している。	○	地域活動・地域新聞・公民館だより等を参考にして地域の行事に積極的に参加したり、地域の方が気軽に来所でき馴染みになるように働きかけている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を事務所・玄関・ホールに掲示し、常に理念を念頭に置いて、利用者一人ひとりに合った支援を心がけている。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、契約時・入居時に運営理念を説明し、同意と理解を得ている。運営推進委員会でも、理念の説明をして出席者(自治会会長・民生委員・老人会会長など) 地方の方々に理解してもらえよう機会をもうけている。	○	より地域の方との交流を深め、理解をしてもらえるように努める。
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	以前からの地域医療に取り組んでおり、地域の方々とも良好な関係が築かれている、利用者・職員も地元の人が多く、散歩・買い物・委員会・行事開催などには、地域の人たちと気軽に挨拶を交わすなど自然な関係が出来ている。	○	連携施設の利用者との交流も深め、イベントがある毎に声をかけをもらっている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護度の高い方は、施設の設備面・交通機関・勤務体制などで参加できない時もあるが、敬老会・地域の行事(七夕まつり・公民館行事・文化祭など)に出来る限り参加をしている。	○	地域・ボランティアの方々に来ていただき交流の機会を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護実習生の研修受け入れ・三雲中学生の職業体験の協力を毎年行っている。他のグループホームとの見学実習についても協力を行っている。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員が行い、反省・改善点があれば話し合い常にサービスの向上に努めている。外部評価の結果を全職員に報告し、改善に向けて、試行錯誤しながら日々実践している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初めて参加していく方には、運営推進会議の意義を伝え理解していただいた上、参加してもらっている。会議では出席者とは顔なじみとなり、地域の行事・情報・地域の人ならではの知恵などを教えてもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口・三雲地域振興局・保健センターなどに対してサービスの質の向上の取り組みについて相談をしているまた、毎回、運営推進会議には出席をもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、利用者には成年後見年制度を利用している方はいないが、研修会があれば、参加して他の職員にもミーティング。職員会議等を利用して制度の理解や活動について学んでいる。	○	研修会・講演会があれば多くの職員が学ぶ機会を多く持てるように努める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃より虐待に対する意識を持ち、利用者を支援する中で気がついたことがあれば職員間で話し合い防止に努めているまた、職員会議を開き高齢者虐待防止法に関連した勉強会をして理解に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・入居時に本人・家族等に詳しく説明し、理解を得るように努力しているまた、疑問点があれば随時詳しく説明をして 納得をえている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談ノートがあり、改善の経過や結果を記録し、今後の対応の参考にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等には毎月訪問や電話連絡があり、個々に利用者一人一人の報告をしている、毎月「たより」を発行郵送して暮らしぶりやお知らせなどを文章・写真で知らせているまた、面会・報告内容について介護記録に記載している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、気軽に何でも言えるような雰囲気作りをし、日頃の様子を伝えている。家族からの意見・要望はすぐに話し合っって質の向上に取り組んでいる。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点・改善点などがあればミーティング・職員会議で話し合っって解決している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限り柔軟な勤務調整をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の施設・病院があるが、利用者に安心して生活が送れるように、職員の移動はしていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会主催の研修会や併設施設でおこなっている研修会などに、なるべく職員が気軽に参加できるようにしているが、勤務体制の都合で参加できないときもある。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松阪市の連合会があり、研修会・勉強会にも参加しサービスの向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を確保し日頃からストレスを貯めないように悩み・利用者の支援方法・家族の話など何でも話し合っでストレスの解消に努めている。勤務体制も職員の希望を聞き入れ計画を立てている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就労規則があり、職員の労働条件が守られている、健康診断も全職員が1回/年、夜勤者従事者は2回/年実施し、心身の健康を保つために対応している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者とは受け持ち制をとり、馴染みの職員をつくっているまた、意識的に利用者としつくりと話す時間をとるように心がけている。	○ 今後とも、もっと利用者一人ひとりと寄り添い接する努力をする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	安心して利用していただけるようにホームの見学・質問・不安点など十分に時間をかけて納得・理解・安心していただけるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の自己決定を重視しながら必要としている支援を見極め必要に応じて他のサービスとの連携調節をおこなっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にはホーム内の見学を自由にしてもらっている。ほとんどの入居者が地域の校区内の入居者であり以前からの馴染みがある。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員・利用者としての立場ではなく、一つの家族としておたがいが支えあえる関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には、利用者の日頃の様子を詳しく報告し、職員の日常の支援の思いや内容を説明している、またご家族の要望や本人の思い・ご家族との思い出話などいろいろと教えていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者全員、必ず月1回以上は、訪問があり定期的におりを見て、会話の中で現在の家族への思いなどをそれとなく聞いている。	○	暑中見舞い・年賀状当を家族や知人に利用者一人ひとりの手作りのたよりを送っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院・洋服店・墓参りを続けている利用者には、馴染みの人や場所との継続的な交流を支援しているまた、定期的な家族への交流が持てるように電話での連絡等気軽にかけていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なじみの者同士や気の合う入居者同士のテーブル作りや、職員が間に入り利用者同士が気楽に交えられる会話作りを折々にしています。	○	利用者一人ひとりの意思を大切にし独りが好きな場所は、あえて声かけはひかえている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時の支援は本人はもとより家族の意思・納得の上、決定しその後も家族・各地域の保健医療・福祉サービス提供者との協力連携をはかって利用者・家族が安心して暮らせるように支援しています。また、退所後の介護のポイント等を書面にてお知らせしたり面会毎に説明したり、家族の不安の軽減を支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者一人ひとりの思いや、これからの暮らし方・生活の仕方についての考えを聞き対応しているまた、家族への要望があればそれとなく家族に本人の思いを伝えている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約・入所・面会時に家族・関係者より聴き取りをしたり、本人自身より生活歴・暮らし・生い立ち等を聴き、得た情報をアセスメントの中に付け加えていますまた、ミーティングなどで職員共通の情報にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎月のケアやミーティング情報収集の中から一人ひとりの生活のリズムや行動の理由を理解できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議や日頃の支援中に、利用者の特徴や変化・問題点・要望などを把握して活発な意見交換を行い介護計画の作成や介護の質の向上に努めています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各入居者には受け持ち制で支援・援助していますが、受け持ち制を取ることによって、より細かく責任を持って入居者の変化・問題・要望を汲み取り介護計画に反映しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の行動・言葉などを個人記録に残しており、日頃の介護の振り返り、状態の変化に対応した介護方法の実践・介護計画に活かしてより良い介護が出来るように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の施設(病院・ディサービス・ケアセンター・高専賃等)と連携を日頃からみにつけて本人の状況によって柔軟な対応ができるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアで散髪・お話しと歌に来ていただいているまた、運営推進会議では自治会長・行政・各地域の民生委員の方に出席していただき、緊急時の協力支援をしていただけるように意見交換を行っている。	○	図書館・消防署・公民館・周辺施設等に出かけ交流の機会をもうけている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の施設と日頃より交流を努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加していただき、情報交換等を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院に定期的に診察に行っている、病院との連携も密にしており緊急時にもすぐに対応できるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に尊敬の念を持ちながら、家族的な環境のもとで家族の一員として、ケアにあたるように心がけている。職員には、個人情報・秘密保持の徹底が図られ契約書がつけられている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた説明を行い、本人の自己決定を尊重し一人ひとりの思いを大切に日々の暮らしを送ってもらっている。	○ 利用者一人ひとりの状態に合わせた自己決定が出来る場面を多くもてるように努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた、生活のリズムを心掛け、食事・レク・散歩など声掛けはするが無理強いはずせず自己決定にまかせている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院・ボランティアの散髪では、本人の好みに合わせた髪形にしている、ADLが不自由な利用者にも本人の意思決定に基づき洋服選びもその人らしいおしゃれに心掛けている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人それぞれの得意な分野で力を発揮してもらっている、当ホームでは高齢者の方が多く食事中は利用者の安全を重視して支援をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の希望によってパン食・ご飯を選んでもらっている。行事の時(誕生日)などは主役の方の希望の献立にしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄誘導表を作り、一人ひとりの排泄パターンにあわせて排泄支援をして、いつも清潔で気持ち良く過ごしてもらっている。	○	おむつの利用者でもものなるべくトイレでの排泄を支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	なるべく、隔日に入浴をしてもらえるように努めているが、本人の希望体調・気分によって、一人ひとりにあつた入浴支援に努めているまた、均一になるように入浴表を作り順番を決めている。	○	体調により入浴が出来ない時は、清拭・足浴などを施行し気持ちよく過ごしていただけるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日勤者より、夜勤者に日中の一人ひとりの様子を申し送り、安心して安眠が取れるように環境を作り夕方よりのリズムを整えている。	○	一人ひとりの体調や精神状態を把握し、その人にあつた日中での活動を促し安心して質の良い睡眠が得られるように努めている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下準備・花壇・洗濯・畑仕事・掃除など日常生活のなかで利用者一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらっている、職員は感謝の気持ちを表し、生きがいを見出してもらえるように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態によって、お金を自分で管理をしてもらっている。	○	ほとんどの利用者がお金の管理が出来ない方のため事務所に預かっている、使用する場合は家族に目的・金額をお伝えし承諾を得てから使っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩を支援している、体調に合わせて車椅子・歩行器・シルバーカーを利用して、散歩場所・距離を決めている。本人の希望があれば職員の勤務と調節して外出できるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	支援できる範囲内で、季節に合った外出先を考えて入居者にあらかじめ日程を伝えている入居者においてはカレンダーに丸印をつけて毎日その日が来るのを楽しみにしてもらっている。	○	近場で、四季折々を感じる場所を探して外出する機会を増やしていきたい。バリアフリーの施設が少なく高齢者の好みに合った場所が少ない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望によって家族・ご近所・知人・友達に自由に電話をかけてもらっているまた、遠方にいる家族には定期的に職員から声をかけ遠慮なく電話をかけてもらうようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	プライバシーを保ちながらゆっくりと過ごしていただけるように、笑顔で迎えている、面接時間の制約はしていない。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護・身体拘束・虐待等に関する勉強会を開催して職員の高齢者の尊厳と権利の意識を高めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動を見落とすことなく見守り、安全面に気を配りなるべく自由に過ごしていただけるようにしているが、出入り口の前がすぐ階段であり危険を感じる事もある。	○	安全を配慮しながら、自由な出入りの確保に努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員間でさりげなく、利用者の様子を把握し、見守っている。夜勤者は2時間毎に巡視し利用者の状態や安全に努めているまた、夜間は共有場所にはモニターを設置して危険防止対策をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりに対する危険物は何かを把握して危険を未然に防ぐように努めているが、危険物であってもその人にとって必要なもの・大切なものであれば、注意・見守りをして利用してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は防災訓練に参加している、利用者にも出来る限り全員参加を心がけている。ヒヤリハットを活用し事故防止の改善と意思の向上に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急・事故発生時の対応のマニュアルがあり職員は内容を把握している。	○	救急講習を受け、常に迅速な緊急時の対応に備えるように努めている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等で災害時の対応等の話になると、かえって地域からの協力を求める声があり、災害時の対応について併設の施設との連携・地域との連携を深めている。	○	非難訓練。火災通報の仕方・救出訓練等は併設施設とともに定期訓練を行うことによって利用者を安全に誘導出来る方法を身につけている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に日頃の状態を詳しく説明しているその際にリスクについても説明して理解をしてもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルの測定をおこなっている、日常の利用者の状態を職員全員が把握し体調の変化や行動異変の発見に努め、状況により医療受診をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全委員が薬の内容を把握できるように介護日誌に記録している。内服の隔日な服用を支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事での工夫(野菜料理を多くする・水分の補給・繊維質の多いもの・消化の良いものなど)に心がけている。体操(2回/日)を行い、身体を動かすように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた口腔ケアの支援をし、入眠前には各個人別に口腔ケアの支援をしている、毎食前には嚥下体操をしたり、歌をうたい誤嚥予防に努めている。	○	毎食前に嚥下体操を実施し、嚥下予防に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮して入居者の嗜好に添った食事を提供をし、個々に摂取量の記録を取り、日々の健康管理の参考にしている。	○ 今後とも利用者の高齢に伴い利用者の状態に合った食事体制(ペースト・キザミ・粥など)をとりいれ、一人ひとりの支援に努める。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策についての各種ファイルがあり、職員は理解あい予防に心がけている、入居者・全職員はインフルエンザの予防接種をうけている、外部からの出入り口には手消毒の場所を設置しています。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日「衛生チェック表」に沿って消毒・管理の徹底に努めている、ごみ処理は毎日、所定の場所に処分し手洗い・うがいなど衛生管理をしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	車椅子・シルバーカーの利用者が多く安全を第一に考えた玄関まわりにしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴槽・トイレ・廊下などに手すりを設置して、暖房は床暖房を利用して動きやすく、安全に気をつけています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各コーナーにはソファを設置して自由に過ごせるようにしています、馴染みの気の合ったもの同士の日常の挨拶・ひとやすみ場所・井戸端会議場所にと利用されている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者には、入所前に使っていた家具・つえ・シルバカ・生活道具などが自由に持ち込んでもらっています。家族の写真を飾ったり。自分の信仰する神仏を祭ったりと、入居前からの生活空間を維持できるような居室づくりをしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気温・天候・利用者の状態に合わせて、こまめに調節している、居室では一定の温度に設定しているが、利用者一人ひとりの体調に合わせてその都度調節している、暖房は床暖房を利用して空気の汚染に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽・トイレ・廊下などに手すりを設置しています。浴槽・トイレには「使用中」「空き」札をさげ、わかりやすく表示しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の部屋の入り口には、顔写真・マストット・手作りの作品などを飾り個性を出している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは、洗濯物干し・プランターをおき自由に楽しんでもらっている、ホームの外回りでは花壇・畑を造り土をいじる楽しさ、季節を感じる楽しさを味わってもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)